報告課題① 第1回テストに向けて（復習プリント）

無彩の色（P48～）

漢字の読み書き

彩色　暖色　寒色　作用　大概　警戒感　沈静　混合　高貴　象徴　害獣　曖昧　舗装　配管
環境　疲労　敏感　新緑　趣　陰影　人柄　戯れ　名残…など**自分で教科書を音読し**、読み書きの怪しい漢字はここに載る以外のものでも練習しておこう。

二、学習書の下段に「語句の意味」が書かれている（P36）言葉もあるが、書かれていない場合は自分で辞書を引くこと。…レポートの二つの語句だけでなく、意味の分からない言葉は自分で調べておくこと。

三、教科書P48「赤は・・・」、「青は・・・」、「二つの色を混合して得られる紫」という表現を見つけること。

四、教科書P49「グレーゾーン」という表現を見つけること。

五、「意外に灰色が多い。」のは「グレーのほうがよい。」からだと考えてみるとどこに注目すればいいかわかるでしょう。

⬇ エクセルやワードの作業画面の外枠がグレーなのも、目が疲れないからだと思われる。

七、教科書巻末「古典参考図録」2 3 に出てくる古代色は第1回ABテストで必ず「漢字の読み書き」問題として出題するので、レポートに自分で選んで書いた十色以外も書けるように、読めるようにしておくこと。

八、自分の選んだ色が好きな理由は、適切な大きさの文字で、二行以上書くこと。大きすぎる文字で二行書いても認めません。

○作品の筆者名（港千尋）を漢字で書けるように、名前を読めるようにしておくこと。

ルリボシカミキリの青（P16～）

漢字の読み書き

飛来　諦める　縫う　裁縫　特定　貝殻　脱皮　文様　硬質　希求　憧れ　採集　斑点　高名
艶やかだ　漆　優美　触角　丹念　証拠　眺める　瞬く　僅かだ　旅程　励ます　瞬間　紛れる…など**自分で教科書を音読し**、読み書きの怪しい漢字はここに載る以外のものでも練習しておこう。

二、レポートには三つしか語句が掲載されていないが、学習書の下段に説明がある語句については覚えておくこと。

三、「主語と述語が整った」という表現に注意すること。（主語・だれ（何）は…、述語・どうする（どんなだ）。）出題に添うと、「誰がどんな状態の中で「息をのんだ」のか」、「何の、どんな様子が「紛れもない」のか」をわかるように書くこと。

四、「縫うように」とは、針と糸が布を縫い合わせていくときにどんな動きをするかを表す「直喩」（たとえ）の表現。

五、「予感」とは「あらかじめ感じること」。未来の時点でどうなるか、現時点である程度わかり、感じているということ。

六、「澱」とは、「澱粉」の「デン（澱）」である。また、「沈澱」の「デン」でもある。このことからも分かるように、水底に長時間、澱んで動かないものを表す文字である。「書庫」には水はないが、書庫がどんな状態であったかを表す「隠喩」（たとえ）となっている。

七、教科書で筆者自身が「何をしたかったか」自問している部分があるので、探すこと。

八、七の問題ともに「教科書から抜き出す」問題は、必要な表現を略したり、不必要な表現を加えてはいけない。また、「筆者が虫に熱中しているようす」を書くので、虫の観察や捕獲時に筆者の心身が集中しているようすを見つけてほしい。

九・十、二問とも、適切な大きさの文字で、二行以上書くこと。

○作品の筆者名（福岡伸一）を漢字で書けるように、名前を読めるようにしておくこと。

この作品は「たとえ」がふんだんに使われた文章である。

※列挙してみることにする。

・縫うように　・目を皿のようにして　・どんな絵の具をもってしても描けないくらい
・一気に打ったような　・息を殺す　・書庫の澱の中　・好きであり続けられることの旅程
・それは静かに君を励まし続ける。最後の最後まで励まし続ける

○自分で文章を書くときも、たとえを適切に使えると豊かな表現になる。積極的に使うように心がけること。

P19 L5～『万葉集』はレポートの⑩で学ぶことになる。
教科書ではわずかな作品しか掲載されていないが、約四五〇〇首を収める日本で最古（奈良時代）で最大の歌集で、編纂には大伴家持が関わったとされるので、大学入試で古典を必要とする人は覚えておくこと。

☆フェルメールの絵に使用される鮮やかな青は「**フェルメール・ブルー**」と呼ばれる（天然ではラピスラズリに含まれるウルトラマリンという顔料に由来）。Wikipedia より。

牛乳を注ぐ女　1658～1660 頃

青を効果的に使った画家は日本にも･･･歌川広重
「ヒロシゲブルー」と言われた藍色の「富嶽三十六景」